

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-89357

(P2010-89357A)

(43) 公開日 平成22年4月22日(2010.4.22)

(51) Int.Cl.
B43L 19/00 (2006.01)F I
B43L 19/00

テーマコード (参考)

H

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2008-260924 (P2008-260924)
(22) 出願日 平成20年10月7日 (2008.10.7)(71) 出願人 505091905
ゼネラルテクノロジー株式会社
大阪府大阪市城東区中央2丁目15番20号
(74) 代理人 100089462
弁理士 溝上 哲也
(74) 代理人 100116344
弁理士 岩原 義則
(74) 代理人 100129827
弁理士 山本 進
(72) 発明者 小林 俊博
大阪府大阪市城東区中央2丁目15番20号
ゼネラルテクノロジー株式会社内

(54) 【発明の名称】 詰替型転写具

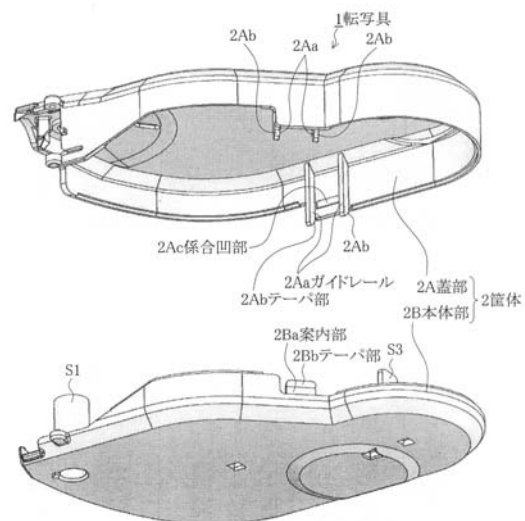
(57) 【要約】

【課題】従来の詰替型転写具において、分割した筐体を詰替作業完了後に閉状態とする際に、筐体の軸部を他方の軸部に対応させる必要があり、手間がかかる点を解消する。

【解決手段】(詰替型)転写具1は、筐体2が、該筐体2に装着した際の転写テープの幅方向に一方(蓋部2A)と他方(本体部2B)とに分割され、蓋部2Aはその内面が略平坦状とされると共に外形内縁部に本体部2B側に向けて突出したガイドレール2Aaが形成され、本体部2Bは外形内縁部に蓋部2A側に向けて突出すると共にガイドレール2Aaに案内される案内部2Baが形成されている。

【効果】蓋部の内面が閉作業時に全く見えなくても簡単かつ確実に閉状態とすることができる。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

使用済みの、長尺帯状の基材に塗膜が塗布された転写テープを巻装した送出コアと、この送出コアから送り出される転写テープのうちの基材を巻き取る巻取コアとを詰め替えるべく、一方を他方に対して開閉自在な筐体を有した詰替型転写具において、前記筐体が、該筐体に装着した際の転写テープの幅方向に一方と他方とに分割され、一方の筐体はその内面が略平坦状とされると共に外形内縁部に他方の筐体側に向けて突出したガイドレールが形成され、他方の筐体は外形内縁部に一方の筐体側に向けて突出すると共に前記ガイドレールに案内される案内内部が形成されたことを特徴とする詰替型転写具。

【請求項 2】

一方の筐体のガイドレールに係合凹部が形成され、他方の筐体の案内内部に係合凸部が形成されたことを特徴とする請求項 1 記載の詰替型転写具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、使用済みの、長尺帯状の基材に塗膜が塗布された転写テープを巻装した送出コアと、送出コアから送り出される転写テープのうちの基材を巻き取る巻取コアとを新たなものに詰め替えるに際して開状態とした一方の筐体と他方の筐体を、簡単かつ確実に閉状態とすることができる詰替型転写具に関する。

【背景技術】**【0002】**

長尺帯状の基材に塗膜が塗布された転写テープを巻装した送出コアと、この送出コアから送り出された転写テープのうち被転写体に塗膜が転写された残りの基材を巻き取る巻取コアと、を備え、前記巻取コアに基材が全て巻き取られて使用が完了した際に、それまで使用していた送出コア及び巻取コアを例えば 2 分割した筐体から取り出して、新たな送出コアと巻取コアを詰め替えた後に、再度分割した筐体を一体とすべく閉める作業を伴ういわゆる詰替型の転写具が知られている。

【0003】

この種（詰替型）の転写具において、筐体を閉状態とする技術、すなわち本願に関連する文献として、以下の特許文献 1 を開知した。

【特許文献 1】特開 2003 - 54192 号公報**【0004】**

特許文献 1 は、筐体が 2 分割され、該 2 分割された両方の内面に、互いに嵌合する軸部が送出コアと巻取コアのそれぞれに対応して形成（片側の筐体で 2 本）されていると共に、2 分割された筐体を開閉するための操作部が、一体とした筐体の上下位置（送出コアと巻取コアの配置方向と直行する方向の両端位置）に設けられている。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

ところで、送出コアと巻取コアの軸端面方向から筐体の開閉を行う特許文献 1 のような構成では、例えば机などの上に該軸端面が平行になるように（内部を上方に露出させて）配置して、一方の筐体を（内部を下方に露出させて）上方から他方の筐体に向けて移動させることで閉じることが多い。

【0006】

このとき、特許文献 1 の構成では、一方を他方に対して開けた筐体を閉じる際、一方の筐体の上記 2 本の軸部を他方の 2 本の軸部に対応させる必要があり、手間であった。また、一方の筐体の軸部が該筐体によりユーザーから隠れてしまうから、上記手間はいっそう深刻である。

【0007】

さらに、上記のように軸部に対応させることと、操作部により閉状態（例えばロックす

10

20

30

40

50

る)とすることとが別、つまり軸部を対応させて一方を他方の筐体に移動させ、その後、一方と他方を一体とすべく操作部を操作するという作業を要するので、さらなる手間を要することとなる。

【0008】

本発明が解決しようとする問題点は、特許文献1では一方の筐体の上記2本の軸部を他方の2本の軸部に対応させる必要があると共に、操作部により閉状態をロックする必要がある、非常に手間がかかる点、である。

【課題を解決するための手段】

【0009】

上記問題を解決するために本発明の詰替型転写具は、筐体が、筐体に装着した際の転写テープの幅方向に一方と他方とに分割され、一方の筐体はその内面が略平坦状とされると共に外形内縁部に他方の筐体側に向けて突出したガイドレールが形成され、他方の筐体は外形内縁部に一方の筐体側に向けて突出すると共にガイドレールに案内される案内内部が形成されることとした。

【発明の効果】

【0010】

本発明に係る詰替型転写具は、一方の筐体の内面は平坦状、すなわち他方の筐体に対して対応させる構成を有していないので、筐体を閉状態とする際に特許文献1のように軸部を対応させる手間が省かれる。

【0011】

また、本発明に係る詰替型転写具は、一方の筐体の外形内縁部に他方の筐体側に向けて突出したガイドレールを形成し、他方の筐体の外形内縁部に一方の筐体側に向けて突出した案内内部を形成している。つまり、ガイドレールと案内内部は、一方と他方の筐体がどういう位置関係にあっても、隠れることなく必ず目につくよう構成しているから、より簡単に閉状態とすることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

本発明は、図1～図4に示す形態により実施可能である。図1～図3は本発明の詰替型転写具における筐体のみ示す。図4はガイドレールを部分的に示す。なお、図1～図4においては、本発明の詰替型転写具が、筐体の構造を特徴としているので、転写具自体の主要な構成は図示を省略している(ゆえに説明中の参照符号も付していない)。

【0013】

転写具1は、筐体2が、該筐体2に装着した際の転写テープの幅方向に2分割され、以下、一方を蓋部2Aと、他方を本体部2Bとし、本例においては、筐体2は、蓋部2Aが、本体部2Bに対して、開閉させるべく移動するものとして説明する。

【0014】

蓋部2Aは、本体部2Bと対向する内面が略平坦状とされていると共に、外形を形成する縁部壁面の内側(外形内縁部)に本体部2Bに向けて突出したガイドレール2Aaが形成されている。

【0015】

本例ではガイドレール2Aaは、筐体2に装着される送出コアと巻取コアの配置方向と直行する方向の両端で、該送出コアと巻取コアの配置箇所間に設けている(2箇所)。ガイドレール2Aaは、外形内縁部から内側に突出した2本の平行な凸部により構成されている。

【0016】

ガイドレール2Aaは、上記のとおり、蓋部2Aの縁部壁面の、本体部2Bと当接する端縁部から突出した状態とされており、該ガイドレール2Aaの前記突出端部には、本体部2B側へ内向きに傾斜したテーパー部2Abが形成されている。

【0017】

さらに、ガイドレール2Aa内には、係合凹部2Acが形成されている。この係合凹部

10

20

30

40

50

2 A c は、本例では、ガイドレール 2 A a 内、すなわち上記 2 本の平行な凸部間における上記縁部壁面に形成している。

【0018】

本体部 2 B は、外形を形成する縁部壁面の内側（外形内縁部）に蓋部 2 A に向けて突出した案内部 2 B a が形成されている。案内部 2 B a は、ガイドレール 2 A a に対応する箇所形成され、該ガイドレール 2 A a の 2 本の凸部間により案内される。

【0019】

また、本例では、案内部 2 B a は、上記のとおり、本体部 2 B の縁部壁面の、蓋部 2 A と当接する端縁部から突出した状態とされており、該案内部 2 B a の前記突出端部には、蓋部 2 A 側へ内向きに傾斜したテーパ部 2 B b が形成されている。

10

【0020】

さらに本体部 2 B は、長尺帯状の基材に塗膜が塗布された転写テープを巻装した送出コアと、この送出コアから送り出される転写テープのうちの基材を巻き取る巻取コアを有している又は詰替時に装着される。

【0021】

また、本体部 2 B は、上記送出コアを回転させる送出ギヤと、巻取コアを回転させる巻取ギヤと、これら送出ギヤと巻取ギヤとに噛合した中間ギヤ P と、送出コア及び巻取コアを装着した状態において、該送出コアから巻取コアに至る転写テープの搬送経路途中に、先端が筐体 2 から突出するように設けられた転写部と、を有している。

【0022】

20

さらに、本体部 2 B は、上記転写部、送出コア及び送出ギヤ、巻取コア及び巻取ギヤ、を枢支する、枢支軸 S 1 , S 2 , S 3 が設けられている。一方、蓋部 2 A には、蓋部 2 A を本体部 2 B に対して閉じる際にこれら枢支軸 S 1 ~ S 3 に対応して例えば嵌合したり挿入したりする構成を有していない、この意味で蓋部 2 A の内面は平坦状である。

【0023】

上記構成の転写具 1 は、送出コア及び巻取コアの詰替作業が完了し、本体部 2 B に対して蓋部 2 A を移動させて筐体 2 として一体とするには、次のようにして行う。例えば本体部 2 B が図 2 に示すように机などの上に載置されているとする。

【0024】

このとき、蓋部 2 A は、内面がユーザーから（図示においても）全く見えないが、図 2 に示すように、ガイドレール 2 A a は見える。一方、本体部 2 B においては、案内部 2 B a が完全に見える。

30

【0025】

したがって、蓋部 2 A においては、目視可能なガイドレール 2 A a を頼りに、これと対応する案内部 2 B a に向けて移動させるだけで、閉状態とすることができる。そして、案内部 2 B a にはテーパ部 2 B b が形成されているから、ガイドレール 2 A a 内に円滑に案内されることとなる。

【0026】

また、案内部 2 B a はガイドレール 2 A a により直線的に、つまりぶれることなく案内されるから、本例で 2 箇所設けたガイドレール 2 A a のうち 1 箇所のガイドレール 2 A a が目視できれば、この目視可能な 1 箇所により、もう 1 箇所のガイドレール 2 A a と案内部 2 B a とが対応することとなり、よって手間がかかことなく閉状態とすることができる。

40

【0027】

さらに、蓋部 2 A と本体部 2 B とが一体となる際、つまり筐体 2 が完全に閉じられる際には、蓋部 2 A にテーパ部 2 A b が形成されていることにより、本体部 2 B の外形内縁部にひっかかりたりすることなく円滑にガイドレール 2 A a を嵌入することができる。

【0028】

そして、蓋部 2 A と本体部 2 B とが一体とされると、ガイドレール 2 A a における係合凹部 2 A c と、案内部 2 B a におけるテーパ部 2 B b とが係合するから、該蓋部 2 A と本

50

体部 2 B の両者は容易に分離することがなく、確実に閉状態とすることができる。

【 0 0 2 9 】

したがって、閉状態とする作業全体に亘って何ら手間がかかると共に、蓋部 2 A を本体部 2 B に対して移動させる際に対応箇所を探す作業と、閉状態とする作業を一度に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 3 0 】

【図 1】本発明の詰替型転写具の筐体のうち蓋部の内面を示すようにした斜視図である。

【図 2】本発明の詰替型転写具の筐体のうち本体部の内面を示すようにした斜視図である。

。

【図 3】本発明の詰替型転写具の筐体の蓋部と本体部の内面を示すようにした平面図である。

【図 4】本発明の詰替型転写具の筐体の蓋部を要部を拡大した図 3 の A - A 線断面図である。

【符号の説明】

【 0 0 3 1 】

1 (詰替型) 転写具

2 筐体

2 A 蓋部

2 A a ガイドレール

2 A b テーパ部

2 A c 係合凹部

2 B 本体部

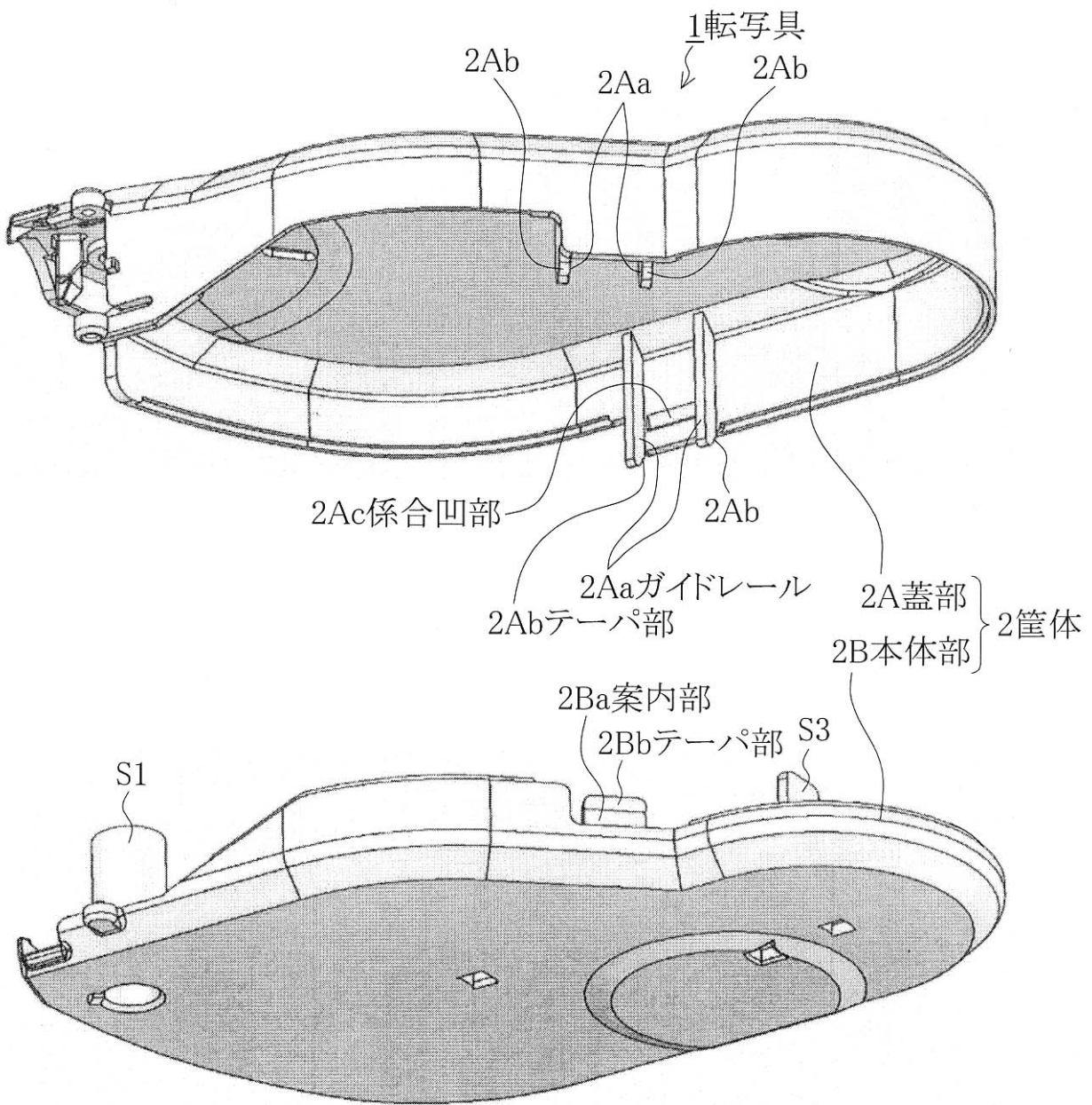
2 B a 案内部

2 B b テーパ部

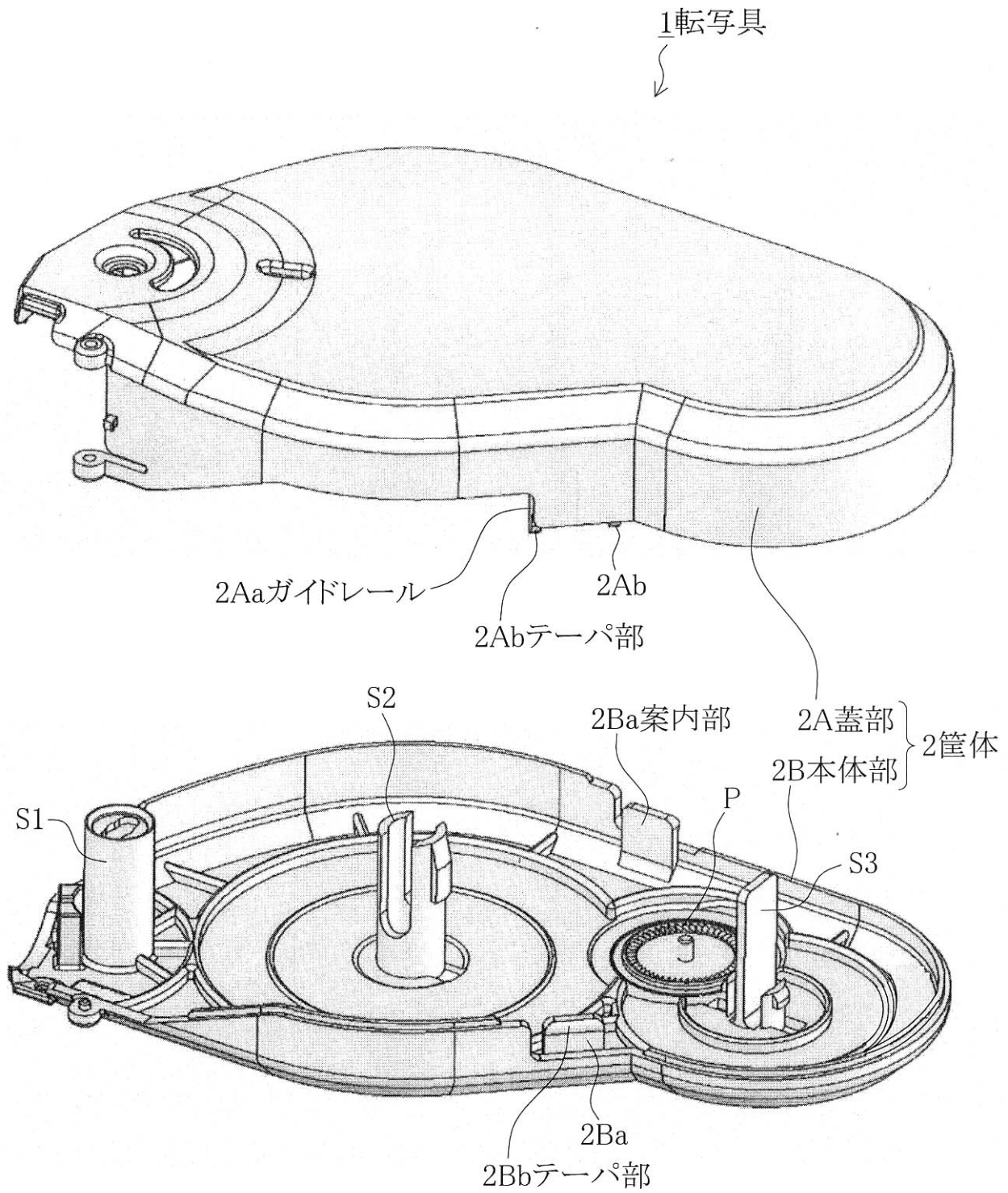
10

20

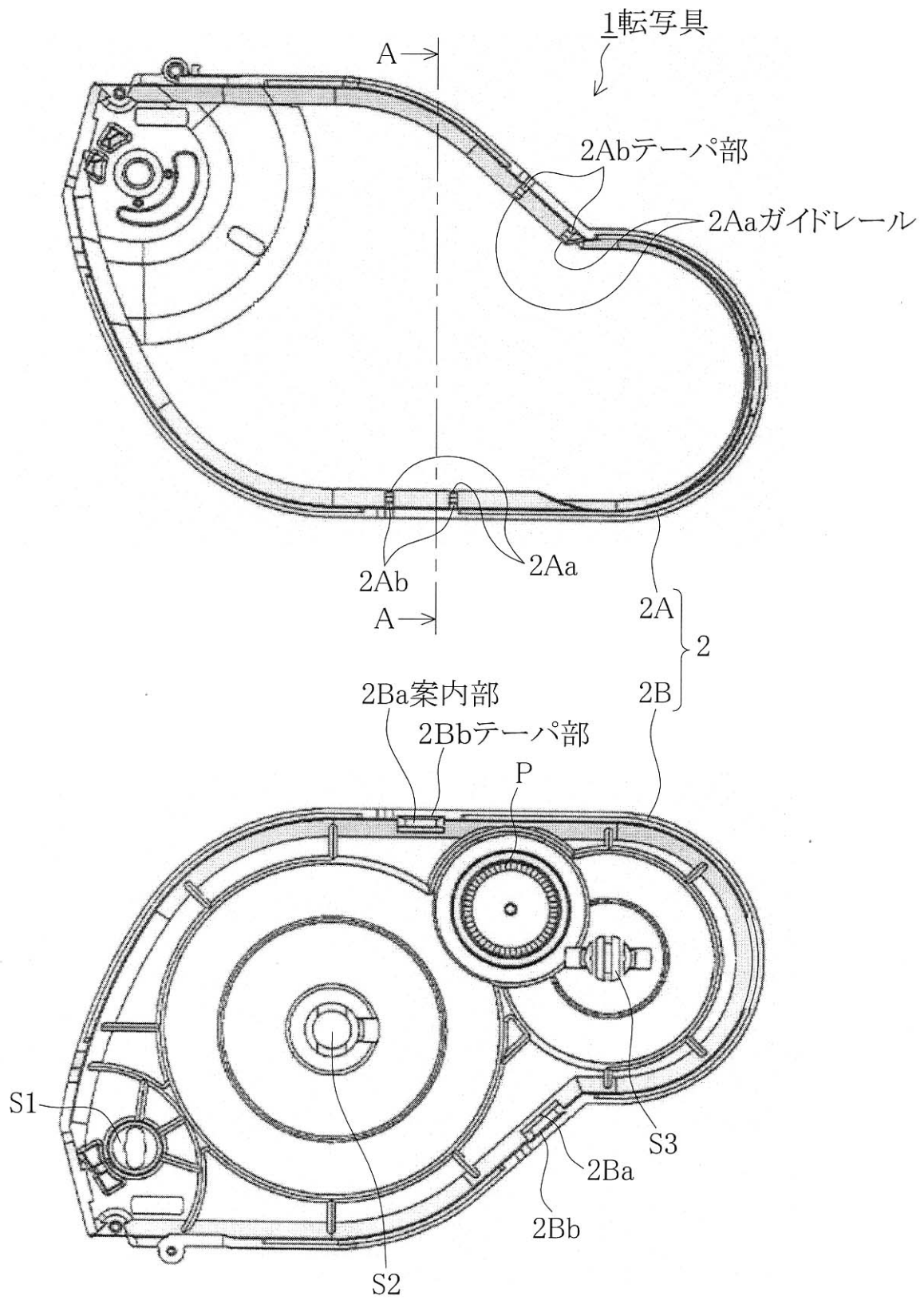
【図 1】



【図2】



【図3】



【図 4】

